

議会だより

第113号

令和3年4月27日発行



3月定例会

- 令和3年度予算の質疑 …… 2・3P
- 議案審議・補正予算 …… 4P
- 臨時会 …… 5P
- 意見書 …… 6P
- 9人の議員が町政を問う …… 7～11P

令和3年度一般会計予算

86億5,300万円

(前年度比 9,300万円の減)

「各世代が笑顔あふれるまちづくり」の実現に向けた主要事業7項目(継続含む)

1. 子育て支援分野 18億3,764万円 (前年度比 △3,518万円)

～未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり～

- ・ GIGAスクール構想事業 518万円
- ・ 給食センター施設設備更新事業 2,462万円
- ・ 結婚新生活支援事業 600万円

一定の要件を満たす新婚のご夫婦いずれかの年齢が39歳以下であれば、30万円を上限に補助を行う。双方が29歳以下の場合は、上限を増額し60万円を上限に助成金を交付する。

2. 健康・福祉・社会保障分野 18億7,013万円 (前年度比 5,902万円増)

～健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり～

- ・ 公共施設感染症対策改修事業 9,912万円
- ・ 新型コロナウイルスワクチン接種等事業 4,148万円
- ・ 高齢者タクシー等利用助成事業 433万円

タクシーは6,000円を8,000円、バスは4,800円を6,400円に増額する。

3. 人権・男女共同・地域コミュニティ分野 2億948万円 (前年度比 2,499万円増)

～町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり～

- ・ 中央公民館舞台照明更新事業 1,661万円
- ・ まつぶしガイドマップ作成事業 92万円

ガイドマップ部数は1万部。役場総務課をはじめ来庁者の多い課の窓口、役場ロビーなど、町内の公共施設に配置する。

4. 産業振興分野 1億3,232万円 (前年度比 16万円増)

～活気あふれるにぎわいのまちづくり～

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止補助事業 1,616万円
- ・ 中小企業等応援クーポン事業 3,111万円
- ・ カレーのまちづくり推進事業 100万円

カレーによるまちづくりの認知度の向上。登録店舗において、新たな顧客の獲得のきっかけ、あるいはコロナ禍で苦慮している店舗への応援、町の商業の振興を推進する。

5. 生活基盤整備分野 4億8,110万円 (前年度比 456万円増)

～利便性の高い快適空間のまちづくり～

- ・町道6号線舗装整備事業 (松伏高等学校前) 1,100万円
- ・町道3号線歩道整備事業 (旧大川戸農村センター前) 19,356万円

6. 生活環境分野 12億8,675万円 (前年度比 △1億3,622万円)

～安全・安心な暮らしのできるまちづくり～

- ・中間処理場整備事業 66,242万円
- ・防災情報通知システム導入事業 450万円
- ・小中学校受水槽給水栓設置事業 177万円
- ・防災倉庫整備事業 14,637万円

7. 行財政運営分野 11億1,100万円 (前年度比 △1,301万円)

～効率的で質の高い町政運営を進めるまちづくり～

- ・情報系サーバー仮想化事業 1,434万円

討論 (一般会計)

賛成(原案)

住民サービスの維持向上のため、自主財源の確保に努めることを要望する。ふるさと納税について、総意工夫、郷土愛を育む取組を望む。結婚新生活支援事業の開始で、転入増と定住化を期待する。子どもを産み育てる環境の整備が充実することを期待。

.....

中間処理場の令和4年度のオープンに向け、着実に整備が進められることを評価する。繰越明許により、公共施設のトイレ洋式化及び手洗い自動水栓化を実施することを評価する。

.....

災害対策本部の機能を備えた防災倉庫の整備は、町民の安心安全の要となるため大きく評価する。中学生学習支援事業は、将来に向け継続事業として充実させ、子どもたちの学力向上を図ることに期待する。

反対(原案)

法人町民税の不均一課税の導入が先送りされていることは問題がある。大きな公共事業は、財源が確保されているが、住民の生活基盤となる生活道路や排水路の事業は要望が多く寄せられているが、事業化されていない。高齢者の事業は大変貧弱だ。高齢者分野の事業、福祉充実は重要な課題、改善を求める。

.....

松伏町の大きな課題は人口減少。町民税が減少している。魅力的な町をつくっていくことが求められている。新たな市街地の拡大の方策を図るべき。道路予算が少なすぎる。

人事

松伏町固定資産評価審査委員会委員の選任

増田 信夫 氏 (任期 令和3年4月20日から令和6年4月19日まで)

令和2年度一般会計補正予算

令和2年度松伏町一般会計補正予算(第8号)

612万円

【主な歳入】

国庫支出金 612万円

【主な歳出】

衛生費 612万円

問 新型コロナウイルスワクチン接種事業の実施に伴う予算(第8号)を専決処分した理由は。

答 町内在住医療機関関係者へのワクチン接種を町が実施する必要があるため、関係医師会との集合契約を締結しなければならないことから、専決処分とした。

令和2年度松伏町一般会計補正予算(第9号)

1億7,614万円

【主な歳入】

地方交付税 1億6,061万円
国庫支出金 6,197万円
町債 2,800万円

【主な歳出】

民生費 8,265万円
衛生費 8,723万円
土木費 8,205万円
商工費 △3,025万円
教育費 △3,942万円

問 令和2年度松伏町一般会計補正予算(第9号)の内容は。

答 民生費の公共施設感染症対策改修工事費は、各公共施設の手洗い自動水栓化を図るためであり、土木費の町道拡幅整備工事費は、町道3号線等の整備に伴うものである。

令和3年度松伏町一般会計補正予算

令和3年度松伏町一般会計補正予算(第1号)

3億167万円

【主な歳入】

国庫支出金 3億167万円

【主な歳出】

民生費 2,074万円
衛生費 1億7,251万円
商工費 8,855万円

問 令和3年度松伏町一般会計補正予算(第1号)の内容は。

答 民生費の新型コロナウイルス感染症対策検査業務委託料は、町内の高齢者支援に携わる方たちのPCR検査費用である。衛生費の新型コロナウイルスワクチン接種高齢者交通手段支援委託料は、高齢者の交通手段支援としてタクシー券を配布する費用であり、新型コロナウイルスワクチン接種委託料は、町民の新型コロナウイルスワクチン接種料である。また、商工費の中小企業等支援金が再び設けられた。

臨時会を開催(2月1日)

提出された議案は、次のとおりで全て可決されました。

●専決処分の承認を求めることについて

新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業の実施に伴い、緊急に令和2年度松伏町一般会計予算を補正するもの。

●財産の取得の変更について

町立小・中学校学習用コンピュータ等機器一式の取得を変更するもの。

●令和2年度松伏町一般会計補正予算(第7号)について

中小企業等応援クーポン利用補助金の増額及び感染拡大防止補助金の計上等に伴い、予算の補正をするもの。

主な質疑

問 臨時会ではなく、なぜ専決処分としたのか。

答 接種をすぐ受ける体制をとる必要があるが、委託を行うためには一定の準備期間が必要なので、早急に予算を編成する必要があったことから専決処分とした。

問 児童・生徒のうち、自宅でインターネット環境が整っていない方の対策はどのようなになっているか。

答 該当児童・生徒に対しては、教室を開放して、教室のWi-Fiを利用してもらうことを考えている。登校する児童・生徒の数は小幅に抑えることができるので、3密を避けてタブレットを活用して学習する環境を提供することができる。

問 クーポン券を利用できる期間等について。

答 広報紙とともに全世帯に配布する。ひとり親家庭等の生活支援も予定している。これらの世帯に対しましては個別に郵送する予定。利用期間はクーポン券の配布から2ヵ月間使用できるよう制度設計している。

問 清掃事業者等支援500万円は、前回と比べて大幅に増額されているが、なぜか。

答 清掃事業者は、コロナ禍という大変厳しい環境かつ感染の不安の中、日々ごみ処理の最前線でその役割を担っている。また、ごみ処理事業は、今般の国の指針などにおいても国民生活に不可欠な事業分野として事業継続が要請される。このため新型コロナウイルスの感染防止と事業の継続の体制整備を支援するため増額するものである。

意見書

犯罪被害者支援の充実を求める意見書

可決

2004年に犯罪被害者等基本法が成立し、犯罪被害者支援施策は一定の前進を果たした。しかしながら犯罪被害者の多種多様なニーズに応えられるだけの整備は未だ十分になされているとは言い難い。

犯罪被害者の権利に対応して、国は、たゆまず支援施策の充実を進めていく責務を負っており、国においては、犯罪被害者支援の充実を図るよう強く要望する。

不妊治療への保険適用の拡大を求める意見書

可決

国においては2004年度から、年1回10万円を限度に助成を行う「特定不妊治療助成事業」が創設され、その後も助成額や所得制限などを段階的に拡充してきている。

厚生労働省は、不妊治療の実施件数や費用などの実態調査を10月から始めているが、保険適用の拡大および所得制限の撤廃も含めた助成制度の拡充は、早急に解決しなければならない喫緊の課題である。

政府におかれては、不妊治療を行う人々が、今後も安心して治療に取り組むことが出来るよう、強く求める。

75歳以上の医療費窓口負担2割化に反対する意見書

否決

安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書

否決

主な議案の採決 (3月定例会)	議員名													
	佐藤 永子 (自)	長谷川 真也 (未)	松岡 高志 (未)	鈴木 勉 (無)	福井 和義 (無)	田口 義博 (自)	高橋 昭男 (自)	増田 秀雄 (未)	川上 力 (公)	吉田 俊一 (共)	砂川 清時 (自)	高野 祐大 (チ)	村上 真由美 (公)	平野 千穂 (共)
松伏町子ども医療費支給に関する条例及び松伏町重度心身障がい者医療費支給に関する条例の一部を改正する条例 (議案第7号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松伏町介護保険条例の一部を改正する条例 (議案第8号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
松伏町中間処理場整備工事(1期工事)請負契約の変更契約の締結(第10号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和2年度松伏町一般会計補正予算(第9号)(議案第15号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度松伏町一般会計予算(議案第18号)	○	○	○	●	●	○	○	○	○	●	○	○	○	●
令和3年度松伏町国民健康保険特別会計予算(議案第19号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●
令和3年度松伏町介護保険特別会計予算(議案第21号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●
< 意見書 >														
犯罪被害者支援の充実を求める意見書(発議第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
不妊治療への保険適用の拡大を求める意見書(発議第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75歳以上の医療費窓口負担2割化に反対する意見書(発議第3号)	●	●	●	○	○	●	●	●	●	○	●	●	●	○
安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書(発議第4号)	●	●	●	○	○	●	●	●	●	○	●	○	●	○

(○=賛成、●=反対)(会派名) 自=自民クラブ、未=未来クラブ、公=公明党、共=日本共産党、無=無所属クラブ、チ=チェンジ松伏

町政に関する

一般質問の主題

増田 秀雄

- 道の駅の整備について
- 農業政策について
- 役場本庁舎及び施設のバリアフリー化について

鈴木 勉

- 田島919番地から921番地付近の12戸ほどの住宅地区域内の町道が最悪の劣化状態にあり、早急に舗装修繕及び排水路の整備を実施せよ
- 道の駅計画は即時中止せよ
- 小中学校の30人学級の実現と2km以上の通学児童及び特認校制度を利用し金杉小学校に通学する児童を対象にスクールバス運行を実施せよ
- 松伏総合公園・松伏記念公園のリニューアル整備を早急に実施せよ

砂川 清時

- 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種体制について
- 令和2年度インフルエンザ予防接種について
- 「健康まつぶし21計画（第2次）」について

川上 力

- 自治会の活性化へ支援強化と条例の制定
- 学校での突然死ゼロを目指した危機管理体制の整備
- 東埼玉道路と町の取り組み
- 新型コロナワクチン接種に介護タクシーの活用を

一般質問の会議録全文は町のホームページから検索できます

村上 真由美

- コロナ禍で孤立を防止する体制の構築
- 困窮世帯への支援充実
- 子どもの健全な成長に3歳4か月児健康診査の充実

福井 和義

- 人生100年時代の介護

松岡 高志

- 松伏町地域防災計画及び洪水ハザードマップの改訂について
- 地域防災計画に位置づけられた道の駅を

平野 千穂

- 小学3年生に対する35人学級の実現
- 来年度から小中学生にタブレットが支給されるが、電磁波過敏症やブルーライトへの対策を問う
- 「道の駅」の見通しはきびしいと考えるが、町の見解を問う

吉田 俊一

- 新型コロナ感染対策としてのワクチン接種、無症状の感染者の療養支援をすすめるためのPCR検査問題について
- 国民健康保険税の子どもに対する均等割の軽減を
- 町財政見通しと国の地方財政計画について

9人の議員が町政を問う



まずだ ひでお
増田 秀雄 (未来クラブ)

Q 道の駅の今後の整備の進め方は

A さらに調査・研究を進めていく

問 道の駅の今後の整備に向けた事業の進め方は。
答 **新市街地整備課長** 道の駅の開設時期を令和10年頃に延期した。これは前面道路の交通量の確保が確実に見込める時期とすることや、より良い道の駅整備に向け、さらに調査・研究が必要としたからである。道の駅の整備や管理運営に関しては、民間の経験や知識を活かせるPFI方式導入の可能性を検討している。

問 現在の用排水路の整備状況は。
答 **環境経済課長** 用排水路の全長は約220kmである。整備状況は、主要な用排水路約20kmについては約70%、支線部分約200kmは、管理上、大部分が土水路である。また生活雑排水等の用水路への排水は、市街化調整区域内で開発申請された場合、町の開発担当が事前に土地改良区や水利組合と協議し、排水場所の要否を判断している。

問 受付窓口の個人情報保護対策の状況は。
答 **総務課長** 窓口で相談を受けた場合、個人情報に配慮する案件等は、環境経済課隣のパーティショ

ンで区切られた相談コーナーを利用している。令和3年度は、相談室を3部屋設置する計画で、うち1部屋は子ども家庭総合支援拠点相談室として利用し、残りの2部屋はフリーで利用できる相談室となる。これらの相談室を有効に活用し、個人情報に配慮していく。



大川戸地区にある寺前揚水機場



すずき つとむ
鈴木 勉 (無所属クラブ)

Q 道の駅の反対世論を無視するのか

A 私の周りの農家は賛成意見

問 道の駅計画をこのまま進めれば、町財政のひっ迫を招き、危機的窮地に追い込まれる事態になりかねず、最悪の場合、町財政の破綻の危機に直面する。道の駅は、無謀な計画であり、その先には住民福祉と住民サービスの切捨て、引き下げにつながるものだ。松伏町の破滅をもたらしかねない道の駅計画は、中止せよ。

答 町長 道の駅事業は総合振興計画に位置付けられた事業。その現実性をしっかり検証していく。

問 越谷市で4.22ha規模の道の駅が計画されている。その影響で町の施設は大赤字になるのは明らかだ。

答 町長 赤字をいつまでも垂れ流すような愚かな経営はいたしません。

問 3キロ先に越谷の道の駅があって、町の施設の経営が成り立つわけがない。内容的にも越谷の方がノウハウもあり、生産農家も多い。町の施設は閑古鳥が鳴くのは目に見えている。それが見えないのなら、ご自身（町長）の資質の問題に関わる。

道の駅は、止めることが最適な判断だ。

答 町長 経営に関してPFIでの試算を進めていく。

問 道の駅に関する地域住民の意見は、圧倒的反対の声である。住民世論も無視して、やる気なのか。

答 私の周りの農家の人たちは、つくってほしいというふうに聞いている。意見聴取の場所の違いだ。



越谷市の道の駅候補地は、町の同施設予定候補地から、わずか3キロ先に決まった。



すながわ きよとき
砂川 清時 (自民クラブ)

Q コロナワクチン接種体制を問う

A ワクチン接種推進本部を立ち上げ

問 ワクチン接種券が手元に届いたら。

答 教育文化振興課長 高齢者の接種券は、4月中旬以降順次発行する。届いた方から予約（インターネット、LINEアプリ、電話により日時、場所を選択）となるが、様子を見たい場合は、接種期間中であれば、いつでも予約できる。また、本人の同意があれば、家族等による代理予約も可能。

問 ワクチン接種会場はどこになるのか。

答 教育文化振興課長 集団接種を前提に、松伏町中央公民館、北部サービスセンターとなる。更に個別接種ができるよう町内医療機関と調整中である。

問 ワクチン接種後、具合が悪くなったら。

答 教育文化振興課長 ワクチン接種後15分間の経過観察を行い帰宅となるが、帰宅後に具合が悪くなった場合は、躊躇せず、町が設置している相談窓口に連絡頂き、県の専門相談窓口やかかりつけ医への相談を促す等適切に対応していく。

問 町長にワクチン接種の取り組み姿勢を問う。

答 町長 令和3年2月4日に新型コロナウイルスワクチン接種推進本部を立ち上げ、接種を迅速・確実に実施すべく体制を整えた。高齢者の接種会場への移動手段確保のため、専用タクシー券を発行する。国からのワクチン供給が遅れており、今後の予定については町からの情報を注視してほしい。



3月28日にワクチン接種訓練が松伏町中央公民館にて行われた



かわかみ つとむ
川上 力 (公明党)

Q 障がい者の円滑なワクチン接種を

A 意見を伺い安心な接種を検討する

問 今後のアフターコロナを考えた時に、自治会活動の再スタートというか、魅力アップについて、町がしっかり取り組んでいくという姿勢を示すために、草加市のような「町会・自治会への加入及び参加を促進する条例」を制定する考えはないか。

答 町長 自治会を取り巻く環境は、高齢化、少子化、単身化、人口減少などの社会背景により、非常に厳しい状況であるが、災害を契機に地域のつながりの重要性が見直されている。町での条例策定については、先ほど総務課長が答弁したが、今後、研究していく。

問 校内発生的心停止は運動場所が多い。屋外へのAED設置や台数の増加を検討できないか。

答 教育総務課長 学校施設を利用する団体もあることから、屋外へのAED設置について、台数の増加も含めて検討を進める。

問 新型コロナワクチンの接種で介護タクシーの利用を必要とする重度心身障がい者などについても、追加の支援をするべきではないか。

答 教育文化振興課長 障がい者の団体、施設、支援者などからのワクチン接種に関するご意見を伺っている。今後、その意向を考慮し、障がいのある方々とその保護者に、ワクチン接種について安心していただけるよう検討していく。



屋外にも増設を目指す



むらかみ まゆみ
村上 真由美 (公明党)

Q 中学生学習支援教室を継続すべき

A 令和3年度も引き続き実施したい

問 相談者が迷わずに相談できるようにワクチン接種も含めた相談窓口の一本化はできないか。

答 すこやか子育て課長 ワクチンの接種に特化して、電話で予約と相談ができる「予約相談窓口」を3月中旬に設置できるよう準備を進めている。ワクチン接種以外の相談にも適切な相談先が案内できるようにしていく。

問 町では多世代交流学習館メロディーで中学生学習支援教室を行っている。今後も身近な場所で学習支援を継続していくべきと考えるがどうか。

答 教育総務課長 中学3年生に対し中学生学習支援教室として9月から実施している。令和3年度も引き続き実施したいと考えている。その経費を当初予算に計上した。

問 子どもの目の機能は3歳から5歳までがもっとも発達し6歳位でほぼ成人と同じくらいになると言われる。弱視を見逃さずに視力回復への機会を逃さないために屈折検査機器を導入すべきと考えるがどうか。

答 すこやか子育て課長 異常の見逃しにならないよう家庭での視力検査に正確で分かりやすい説明文を添付し、検査のサポートをしていく。屈折検査機器等の視力検査機器の導入については、近隣市町の導入状況やその費用対効果等を引き続き調査していく。



日本弱視協会HPより子どものランドルト環検査



ふくい **福井** かずよし **和義** (無所属クラブ)

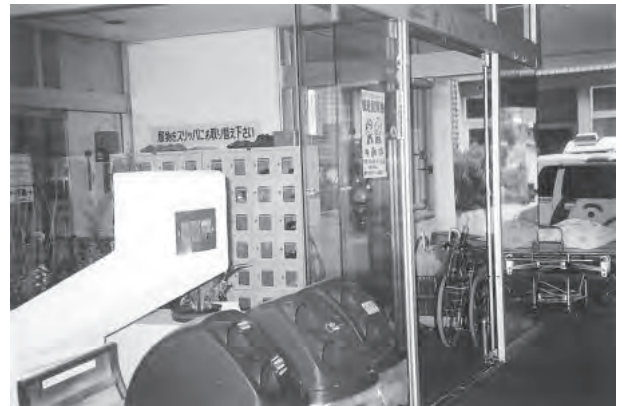
Q 人生100年時代の介護

A 誰もが直面しうる現実的課題

問 高齢化が急速に進んでいる。長い老後を健康なまま暮らせるようにしたい。厚生労働省は、昨年1年間で100歳以上の高齢者は前年比9176人増の8万450人になったと発表した。また、松伏町の人口は、毎年、約340人減少していて、少子・高齢化が進んでいる。そして、高齢者は増加して、介護士、介護施設の不足が予想される。これらの問題を解決するには、介護士の確保、介護施設の増設、地域包括ケアシステムの充実、介護サービスの充実、介護予防の充実などが必要である。町は人生100年時代の介護について、どのように認識しているのか。

答 **いきいき福祉課長** 今年度策定している第8期・介護保健事業計画で算出した人口推計では、当町の要介護認定者数は年々増加を続け、計画最終年の令和5年に1250人となり、ピークを迎える令

和17年に1571人になることが見込まれる。また、現在は前期高齢者の比率が高い状況にあるが、今後は75歳以上の後期高齢者が増加していくので、介護認定率も年々上昇していく。このように、人生100年時代の介護に関する取組は誰もが直面しうる現実的課題と認識している。



特別養護老人ホーム (神奈川県横浜市)



まつおか **松岡** たかし **高志** (未来クラブ)

Q 松伏町の道の駅計画の方向性は

A まちづくりの1つの拠点になる

問 「松伏町地域防災計画」及び「洪水ハザードマップ」の改訂スケジュールを伺う。

答 **総務課長** 地域防災計画については、2月にパブリックコメントを実施した。今後はパブリックコメントでの意見を付して、松伏町防災会議において審議をいただき、3月中に策定する予定。また、洪水ハザードマップについては、今年度中の改訂を予定していたが、昨年、内閣府は災害対策基本法を改正し、水害時の避難情報の在り方について見直すことと決め、今年の大雨シーズンから運用を開始することとなった。この避難情報の在り方の見直しについては、洪水ハザードマップにおいて大変重要な部分であることから、法改正を待つて作成することを考えている。改正後は速やかに洪水ハザードマップを作成、印刷し、全戸配布を行いたいと考えている。

問 今後の松伏町道の駅計画の在り方、重点道の駅と防災、観光を踏まえた道の駅の方向性について、町長の考えを伺う。

答 **町長** 東埼玉道路の開通とこの道の駅が松伏町の拠点づくり、第5次総合振興計画の中における核となるところとして、交流人口の増加、高速道路を通して松伏道の駅という看板が見えれば、松伏という地域がここにあるのだなという、町の魅力を示すことができると思っている。



埼玉県横瀬町の道の駅「果樹公園あしがくぼ」



ひらの ちほ
平野 千穂 (日本共産党)

Q 道の駅整備計画は見直すべきでは

A 収支はホームページから削除検討

問 「道の駅整備計画」で、パート配置20人と記載しているが、収支計算すると1時間当たり7人。整備計画を見直す必要があるのではないかと。

答 **新市街地整備課長** 見直す必要はあると認識。

問 町ホームページ「道の駅整備計画」で1500万円の黒字としているが、住民に誤解を与えかねない。総事業費、事業収支の箇所は除くべきでは。

答 **新市街地整備課長** 総事業費は現状変更の必要はないが、防災面を強化する場合は修正が必要になる。収支部分は、再検討中などの表示をしつつ、町ホームページから削除することを検討する。

問 令和3年度、小中学生に1人1台学習用タブレットが支給される。欧州は、無線周波数電磁波の健康への影響が指摘され、人体に安全な有線LANを推奨している。国内でも電磁波過敏症での頭痛、めまい、吐き気などの報告がある。町の見解は。

答 **教育総務課長** 国の電波防護指針で、人体に有害な影響を及ぼさない基準値を示している。事前に教職員、保護者に電磁波過敏症について周知する

ことが必要と考えている。教職員には、児童・生徒に症状がないか、様子を観察するよう指導する。

問 画面のブルーライトによる眼精疲労や睡眠障害対策として、カットシートの導入を検討できないか。

答 **教育総務課長** 国や県、近隣市町の動向も見極めながら、調査・研究を進めていく。

「道の駅整備計画」で示された人件費

パート職員 年間予算額2,600万円

1日当たりの予算72,222円(年間予算を営業日360日で割る)

1時間当たりの予算7,222円(1日の営業時間10時間で割る)

// 人数 7人(時給1,032円)



よしだ しゅんいち
吉田 俊一 (日本共産党)

Q 町としてPCR検査への助成を

A 訪問介護職員らへ公費検査を実施

問 埼玉県は高齢者入所施設や医療機関の従事者にPCR検査を無料で実施する。しかし1回だけの検査で、定期的な検査が必要なのではないかと。

答 **いきいき福祉課長** 全国の高齢者施設で集団感染が相次ぎ、厚労省は緊急事態宣言が出ている都道府県に3月中に高齢者施設のPCR検査を集中的実施することを通知。これを受け実施することに。県ホームページでは、今回の検査結果や効果、今後の感染状況をもとに検討するとされている。

問 県検査では入所施設職員のみで、訪問・通所介護施設やケアマネージャーは対象外に。高齢者と接する仕事をされているみなさんは「万が一感染しないか」「サービスを利用する人に安心して利用していただきたい」不安と緊張の中で仕事をしている。町としてPCR検査の助成ができないか。

答 **いきいき福祉課長** 本来であれば入所施設の職員に限定することなく検査することが望ましい。県検査では対象外の訪問介護、通所介護等に携わる方で希望者に全額公費負担によるPCR検査を实

施するため、今議会で補正予算案を上程している。障がい福祉事業所の方からもPCR検査の希望が寄せられているが、検討できないか。

答 **いきいき福祉課長** 介護ヘルパーの方で障がい福祉のヘルパーもやられている事例があり、町内の障がい福祉施設の希望者にも、拡大を検討中。

松伏町 PCR 検査予算

■令和2年度補正予算 250検体分…220万円

3月5日議会可決・検査結果200人全員陰性(3月末)
障がい福祉事業所職員、民生委員の希望者にも実施した。

■令和3年度補正予算 500検体分…439万円

3月18日議会可決

*単価 1検体7980円+消費税
だ液の検査キットを用いる方法



3月議会・傍聴者数			
2月25日	2名	3月11日	2名
3月1日	12名	3月12日	1名
3月2日	12名	3月16日	2名
3月5日	1名	3月18日	2名
3月9日	1名		
合計		35名	

傍聴者の声

(抜粋です)

- コロナ禍、今年度は厳しい予算編成であったように見える。コロナ対策も考えて、小中学校を含む公共施設のトイレ洋式化水洗化推進は良いと思う。
基本的住民サービスに不足のないよう配慮して頂ければ幸いです。
- 新型コロナウイルスの影響により、収入が激減。
町の財政は減っていませんか？道の駅より道路を直して欲しい。
- 庁舎入口にある人口数を見て驚いた。住み始めた時は3万人以上で、今は28,000人住んでいる。
若い人が住みたい町づくりを考えるべきである。



3月28日 新型コロナウイルスワクチン
接種シミュレーション 松伏町中央公民館



3月25日 越谷野田線の一部区間が開通
(内前野交差点)

【編集後記】 増田 秀雄

近年、毎年のように襲ってくる地震、台風、そしてここ1年ほど猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症など私たちの生活は常に自然の猛威にさらされています。

何事もなく平穏に暮らしていけることが、いかに幸せなことかしみじみと感じました。

しかしこれまで人類は幾多の災害を乗り越え、復興を成し遂げてきました。であればこの新型コロナウイルス感染症も克服し、いつか元の生活に戻ることが出来ると信じています。

- 議長 増田 等
- 議会広報発行特別委員会
- 委員長 田口 義博
- 副委員長 鈴木 勉
- 委員 長谷川 真也
- 委員 平野 千穂
- 委員 増田 秀雄
- 委員 砂川 清時
- 委員 村上 真由美